

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ



梅経寒苦発清香 ～梅は寒苦を経て清香を発す～

通信教育部社会福祉学科卒業生

山木 万里子

1. はじめに

私は現在50歳、2023年4月に社会福祉士の資格取得のため、東北福祉大学社会福祉学科3年に編入学し、2025年3月に卒業しました。卒業時に社会福祉士、認定心理士、福祉心理士、防災士の資格を取得し、現在は精神保健福祉士の資格取得のため、働きながら短期養成施設の通信教育部の学生をしています。在学中、どのような気持ちでどんな風に過ごしてきたか、これからお話していきたいと思います。

2. 入学時に卒業時の目標を決め、

目標を達成した自分を想像する

私は入学時に、「卒業する時は、社会福祉士、認定心理士、福祉心理士、防災士の資格を取って、卒業式では袴を着て、母と一緒に卒業式の看板の前で写真を撮る！」という目標を立てました。その目標を立てた時は、実際に全てを達成した自分を想像しました。目標を立てる時に、その目標を達成した時の自分の姿を想像することは、モチベーションを保つためにも、とても大切だと思っています。

3. 何事にも計画的に取り組む

目標を決めたら、次はその目標を達成するためにスケジュールを逆算して考え、履修計画を立てていきます。私は東北福祉大学に編入学時に仕事をいったん退職し、7か月間は仕事をせずに30年ぶりの学生生活に集中し

ていたので、授業は対面のみ、他の日は教科書を読んだりして、なるべく勉強モードの毎日になるよう心掛けていました。その後は仕事をしながらの学生生活となり、授業は対面からオンデマンド中心に切り替えました。

4年次には、「前期で必要な科目を全て受講して、後期は実習後の11月から国家試験の勉強をする！」という目標で履修計画を立てました。しかし、全ての資格を取得するには3年次と4年次で追加履修を上限までする必要があり、4年次の前期にかなり詰め込んでいたため、対面授業とオンデマンド授業で月7科目受講となった月もありました。また、2月に仙台で開講予定の科目が7月に東京で開講していたので、その科目については東京で受講しました。一部の授業は後期のみしか開講しておらず、11月に受講した科目もありましたが、11月からは予定どおり、国家試験の勉強に集中することができました。

勉強時間は、平日は夜3～4時間、朝1時間程度、土日は昼頃から勉強するという生活でした。勉強時間を確保するため、家事の時間を減らしてその時間を勉強時間にあてたり、自分にはクリスマスも正月もないんだという気持ちで勉強に取り組みました。そして、無事社会福祉士の国家試験に合格し、2年間で予定していた資格を全て取得して卒業式にも出席し、入学時の目標を全て達成することができました。

(追記)

4年次の10月に模擬試験を受けましたが、下から数えた方が早いくらいかなり悪い点数で、とても落ち込みました。しかし、そこを気にしていると勉強のモチベーションが下がってしまうので、模擬試験を受けたこと自体を忘れることにしました。悪い成績や結果を気にしていると、時に自分を見失ってしまいます。そんなときは忘れてしまうのが一番です。

4. さいごに

タイトルの「梅経寒苦発清香～梅は寒苦を経て清香を発す～」とは、秋田で高校の校長先生をしていた母方の祖父が卒業式に話していた言葉で、「梅は厳しい冬の寒さを乗り越えた後、花を咲かせ、清らかな香りを放つ。人間も同様に、苦難を耐え忍び、乗り越えるからこそ成長できる。」という意味です。

仕事や子育てをしながら学生生活を送ることは、自分との戦いの毎日です。いかに勉強時間を作るか、目標に向けてモチベーションを保てるかに尽きると思います。しかし、それを乗り越え、資格を取得して大学を卒業できた時の自分は、きっと人間としても成長していると思います。今はまだ両立が大変な状況かと思いますが、応援しております。

今回、機関誌への寄稿依頼のお話をいただいた時、闘病中の父に喜んでもらえたらい、お引き受けしました。残念ながら9月11日に他界してしまいましたが、いつも見守り、応援してくれていた父に、この場を借りて感謝の気持ちを伝えたいと思います。私の名前の由来は、「万里の長城のように、コツコツと一步一步進んで行き、振り返った時に大きな道となる。」という意味です。父につけてもらった名に恥じることなく、これから社会福祉士として、一步一步進んでいきたいと思っています。

最後に、指導教員の芳賀恭司先生、職員の皆様、在学中は色々と相談に乗ってくださり、本当にありがとうございました！